

〔第2回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

免疫老化と感染症、そして腸内環境へ

老化機構研究部
丸山 光生 部長

2015年10月13日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

老化のメカニズムの解明に向けた研究は、分子、細胞レベルを中心に寿命研究で数々の成果を残してきたモデル生物を用いて進められてきた。しかしその一方で、基礎研究の大きな壁である老年疾患との関連につながるエビデンスの構築と戦い続けてきた。

我々は、老化研究を普遍的なメカニズムのlogicではなく、加齢変化の中で見られる様々な疾患の原因となる生体機能の低下、恒常性の破綻のメカニズムを明らかにすることと捉え、その一端を担う加齢に伴う免疫機能の低下を標的に続けている。具体的にはCdc42に結合して活性化する免疫組織特異的GDP/GTP交換因子(GEF)であるZiziminファミリー遺伝子(Dock10,11)の生理的機能の解析を通して、免疫老化、とりわけ高齢者の多くが重篤化に苦しむ外界からの感染に対する免疫応答の賦活化を考察しつつ、今後の展開を紹介する。

座長：中西 章